

新年のご挨拶

(令和2年 一般社団法人情報サービス産業協会 新年賀詞交換会より)

乾杯挨拶

独立行政法人情報処理推進機構

理事長 富田 達夫

明けましておめでとうございます。原会長、牧原副大臣からお話がありましたとおり、今年はオリンピック、パラリンピックを迎えるということであり、大きな転換点に来ているということは、皆さんもひしひしと感じられていることだと思います。



昨日行われた経済三団体のパーティーにおきましては、いろいろなメディアが各企業のトップにインタビューしています。皆さんはいま非常に厳しい状況であることを把握していて、ITの世界で米中に後れを取ったということ、残念ながらほとんどのトップの方が認めている。しかし、このままではいけないということにも気がついてきていて、今年は変えていかなければいけないと語っていた方が非常に多かったと思います。

中西会長は地球の温暖化のことを言っておられましたが、今年の台風の被害のことを考えると、あれが何年に一度の事ではなくて明らかに毎年あるような、温暖化に伴ういろいろな弊害が出てきていることは紛れもない事実で、そういうことにも対応していかなければいけない。

われわれがオリンピック、パラリンピックを目指す中で、東京も渋谷、虎ノ門、品川と、駅ができたり、駅舎が変わったり、街自体が大きく変わったりする。その中には、さまざまな最新のIT技術が盛り込まれているはずですが、かつて、インフラにITの力がなかなか入りきれなかったために、今いろいろ苦労しているわけですが、いま建っているビルや駅

などには最新の IT が盛り込まれている。そういう意味で、IT を使った改革は今どんどん進んでいると考えています。各企業の方々もまさに今が変革の時だと言っていて、それをドライブするのは IT であることは間違いない事実だと考えています。そして、ここにおられる情報サービス産業のソフトウェアをドライブしサービスを提供していくことが日本企業を強くする、というのが皆の思いだとすれば、それをぜひ JISA の皆様方と手に手を取って一緒にやっていかなければいけないということです。

先ほど副大臣からお話がありましたように、情報処理促進に関する法律の改正が行われて、5 月ごろから施行されるわけですが、それで DX をいかに推進していくか。各企業が後れを取っている今、本当に自分たちの DX の度合いを高めていかないと、このままではまずいということで、DX の度合いを変えていく。そこでは、いかに自分たちが持っているデータを世の中にあるデータと併せて活用していくかが問われています。そのためには、データ間の連携や、そういうことを進めていくためにアーキテクチャが非常に重要になっていく。この二つについて、IPA がその法律の下でさまざまな活動を皆様とともに進めていくことが課されているわけで、それに向けて IPA は今年一年頑張っていこうと思っています。

「JISA Spirit」のポスターのように、まさにスタート台に各企業が立っているわけで、その追い風になるのはやはり情報の力だと思っています。われわれが経済産業省と一体になって、そういう力を支える力、プッシュできる力を付けていきたいと思っています。皆様方の協力もいただいてぜひ頑張っていきたいと思います。